|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 第1部　公共の扉　　２章　公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 | | |
|  | ４　他者と共に生きる倫理 | 教科書  p.32～33 | 年　　　月　　　日 |

**年　　　組　　　番／名前**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

□学習課題

Q：私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

（1）社会の格差を生む要因にはどのようなものがあるか。

（2）すべての人が能力を発揮できる社会にするには何が必要か。

（3）互いの立場を理解するためにどんな工夫ができるか。

●公平な社会とは

• 人類は、すべての人々が平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。

• 17世紀以降のヨーロッパでは、理性に基づき人を教え導こうとする①　　　　　　　　が展開。

　▶人は生まれながらに②　 　　 　であるという普遍的な価値観が生まれた。

●平等と公正をめぐる現代の議論

• 20世紀前半に自民族を優れたものとし、自民族を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まる。

• ドイツでは、過激な全体主義（③　　　　　　　　）が誕生。

　▶みずからとは異なる者を平等の対象とみなさず、暴力によって存在を消去しようとした。

⑴　④　　　 　　　　　　　 　　　や⑤　　　　　　　　（ドイツの哲学者。アメリカに亡命）

• 全体主義（ナチズム）の原因が行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調。

　▶ 特定の利益や目的のために使われる理性を「⑥　　 　　　　　 　　」として強く批判。

⑵　⑦　　 　　　　　 　　（ドイツの哲学者。アメリカに亡命）

• ナチスの凶悪な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって担われた（⑧　　 　　　　　 　　）

と考えた。

　▶ 多様な人々が対話できる⑨　　　　　　　　　　　　が必要だと考えた。

⑶　⑩　　 　　　　　 　　（ドイツの哲学者）

• 他者と理性的に対話を交わし合うこと（⑪　　 　　　　　 　　）ができる公共的な空間を再構築しようとした。

⑷　⑫　　　　　　　　（アメリカの政治哲学者）

• 各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られているために、社会の不正義が生じると考えた。

　▶ 自分の置かれた立場を知ることができないように⑬　　　　　　　　　　　　をかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、⑭　　　　　　　　　　　　を提唱した。

部分サンプル

⑸　⑮　　　　　　（インドの経済学者）

• 現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという概念

（⑯　　　 　　　　　　　 　　　）を提起。

　▶それらを満たし高めることで社会全体が幸福になっていくと唱える。

●課題と向き合うために

• 先人たちの物事に対する視点や方法をヒントに今日の社会の課題をとらえ、解決方法を考える。

▼確認（教科書の該当箇所をマーカーしよう）

Q：よりよい社会の形成に向けロールズとセンは何が重要と考えたか、それぞれ本文から探そう。

■学習課題（120字程度でまとめよう）

Q：私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

◆説明（120字程度でまとめよう）

Q：発展途上国にはどのような支援が適切か、ケイパビリティの視点を踏まえて説明しよう。

|  |
| --- |
| ■振り返って自己採点してみよう　(　A：よくできた　B：できた　C：あまりできなかった　) |
| ■分かったこと、感じたことを書いてみよう |